

みんなとともに笑顔いっぱい - 「101」新たなるステージへ -



みんなとともに



東日本大震災から、昨日でちょうど10年になりました。「地震」による災害と「原子力発電所事故」による災害という「複合災害」が発生しました。10年前というと、6年生でも2歳のときですから、子どもたちの記憶には残っていないことでしょう。ですから、福島に生きる子どもたち、将来福島を巣立っていく子どもたちにこの災害を語り継ぐことは、福島の学校の責務だと考えています。



「東日本大震災」から10年！

3月11日に相馬の海にメッセージを書いた「タイサンボク」の葉を流す「木の葉の舟流し」活動への参加を呼びかけたところ、約130枚の葉が集まりました。3月8日に「じろはったんの会」代表の永野さんに引き渡しましたので、今頃はその“思い”が届いていることでしょう。

すべてのメッセージを読ませていただきましたが、ここではその一部を紹介します。（なお、読みやすいように、平仮名を漢字表記にする、文末表現を変えるなどの手を加えています。）

〈夢や希望〉

- ぼくは、絵を上手にかいて、漫画家になります。
- ケーキ屋さんになって、みんなの笑顔を増やします。
- ぼくは、人を助けるしごとについて、人を助けたいです。
- 自分は作家になって、多くの人を楽しませたいです。
- 薬をとどけて、みんなを元気にする薬剤師になります。
- ぼくは、看護師になりたいです。
- ぼくは、宇宙飛行士になって、全部の星のかけらを集めます。
- わたしは、獣医師になって、たくさんの動物の命をすくいます。
- 美容師になって、みんなを笑顔にしたいです。
- ぼくは医者になって、けがをした人や病気の人を助けます。



〈復興へのメッセージ〉

- 安心、安全な福島にしていきたいです。
- 動画で地震や津波の怖さを知りました。今後、防災意識を高めます。
- 夢のために、今、たくさん本を読みます。
- 福島 みんなを笑顔にしたいです。
- 一日でも早く、みんなが元の生活にもどれますように。
- みんなが幸せにくらせる福島にしていきたいです。
- 福島に夢ある希望をもどしていきます。



〈なくなった人や ペットへ〉

- じいちゃん、ばあちゃん、見守っていてね。
 - おばあちゃん わたしのことを見ていてね。警察官になるからね。
- じいじ、私のことを見守っていてください。
 - 亡くなってしまったペットのハムくん、元気にしてる？



【校長のつぶやき】 その61 「チーム清明 その2」

前回、本校の教育活動を支えている職員の話を書いたが、今回はその続きである。本校には、福島県で雇用している職員と、福島市で雇用している職員がいる。「支える仕事」をしている職員は、市で雇用している職員が多い。（本校に勤務している職員は、みんな子どもたちにとっての「先生」である。）

用務職の大江先生は、勤務時間前にまずゴミ出しをしてくれている。その後は、季節に応じて外作業をすることが多い。落ち葉の片づけは大変な作業である。市役所への文書送達も大切な仕事である。

調理員の町田先生と佐久間先生は、男性二人でチームワークよく、給食をつくってくれている。余裕をもつてつくりたいと時間前に出勤して作業を開始している。調理が進むと、校舎内においしい匂いが漂ってくる。

会計年度任用職員で本校に籍があるのは、特別支援教育協力員の富田先生、ハートサポート相談員の力丸先生、学校図書館司書の庄司先生である。それぞれに子どもに直接かかわる仕事をしてきている。スクールサポートスタッフの元木先生は、県の雇用で、消毒作業を中心に支援をしてくれて、とても助かっている。

そして、佐々木教頭先生である。「本校がうまくいっている」のは、児童、保護者、職員の話に耳を傾け共感的に対応してくれている佐々木教頭先生の力によるところが大きい。正に、「縁の下の力持ち」である。